

2013
Number
083

TAMA UNIVERSITY

Rapport

Contents

多摩大学開学 25 周年記念事業	P.02
.....	
SRC2013 夏 発表 一覧	P.03
.....	
プレミナールの紹介	P.04
.....	
オープンキャンパス報告	P.05
経営情報学部・グローバルスタディーズ学部	
.....	
経営情報学部 キャリアサポート	P.06
キャリアサポートアドバイザーの紹介	
.....	
News	P.07
グローバルビジネス人材像創造講演会	
.....	
写真で見る 多摩大学の歴史⑥	P.08



プレミナール
「私の志」

多摩大学 HP にて公開中
<http://www.tama.ac.jp/kokorozashi/index.html>





完成予想図 平成 26 年 9 月竣工予定

多摩大学開学 25 周年記念事業について

多摩大学 25 周年記念事業

プロジェクトチームリーダー・副学長 諸橋 正幸

平成元（1989）年に開学した本学は、平成 26（2014）年に開学 25 周年を迎えます。

平成元年開設の経営情報学部、平成 19 年開設のグローバルスタディーズ学部、平成 5 年開設の大学院経営情報学研究科より、約 6,000 名の卒業生を輩出しています。経営情報学部第 1 期卒業生は 40 歳半ばに達し、実社会の中堅層として日々奮闘しています。

25 年の実績を踏まえながらも、教育のさらなる充実と社会に開かれた大学を目指し、次の 25 年に向かうべく「多摩学」研究をはじめとして地域（ローカル）にしっかりと足場を持ちながらグローバルな視界を拓く“グローバル”志向を大学の基軸とし、着実に実績を積み重ねつつあります。

少人数の徹底した手作り教育による「ゼミの多摩大」の名の通り活発な教育・ゼミ活動がおこなわれています。

このたび、開学 25 周年を機に、平成 26（2014）年 9 月竣工予定で多摩キャンパスに新たなファシリティ（新棟）の建設をおこない、さらなる教育環境の進化として「学生の学ぶ場」を創設します。

このファシリティには、学生アメニティの向上としてセブンイレブンの出店を予定しており、地域の方々にも開放することとしております。またこの場所を学生の地域連携活動の拠点とし、開かれた大学のステップとしていきます。

「現代の志塾」これは、本学の存立を示す言葉です。今こそ創立の原点に立ち「人間を育てる教育の場」を徹底的に追求したいと思います。

本事業に、ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

多摩大学では学生による研究発表会が年2回開かれています。SRC (Student Research Conference) と呼ばれ、発表論文をめぐり学生や教員からの質問が飛んできます。経営情報学部が扱うテーマの一端を垣間見ることができます。

※秋学期は12月21日(土)に開催予定です。

開催日：2013年7月13日

発表表		
市村江梨果	エレクトロニクス産業のアジア連携	金ゼミ
江成麻衣子	日本の音楽業界とアジア	金ゼミ
横山 淳	日本とシンガポールの医療ツーリズムの違いと導入	下井ゼミ
美野輪諒人	日本のアイドル	下井ゼミ
小野田 純	現代の音楽について	下井ゼミ
井上 海岬	Our New Flavor for 2013	English Expression
渡辺 捺美	Baskin Robbins Our New Flavor for 2013	中村その子ゼミ
山口 洋佑	新興国ビジネスとこれからの展望	金ゼミ
宇都木孝一	コーチングの基礎	飯田ゼミ
下村 耕介	20代と社会人の社会関係資本についての比較研究	中庭ゼミ
佐藤 亮太	SNSと音楽	今泉ゼミ
佐竹 哲西	インキュベーションの有効性についての考察	中庭ゼミ
下平 将吾	就職に求められる「力」の変化	今泉ゼミ
田中沙央理	高級レストランとファミリーレストラン、どっちで食べたら満足する？	大森拓哉ゼミ
栗原 佑季	古いサイトの信頼性	諸橋ゼミ
小侯 歩夢	大川小学校の悲劇	飯田ゼミ
佐藤 俊介	新聞社の個性を知る	今泉ゼミ
向井 頌子	地域密着型小規模洋菓子店への販売促進提案	中村その子ゼミ
赤坂 佳紀	シンプルなデザイン	下井ゼミ
佐々木麻衣	サブカルチャーが生き残る条件	諸橋ゼミ
高橋 健太	書籍市場と未来	今泉ゼミ
宮崎 季将	日本の文化産業のアジア戦略—コミック産業を中心に—	金ゼミ
大塚 隆広	恐怖感、加速感、閉塞感を持つ体験型企画の提案	出原ゼミ
Romain Garbaa	3DCG Creation	彩藤ゼミ
持田 翔太	浅草お祭りミュージアムコンテンツ制作	彩藤ゼミ
DJIOUX Guillaume	Development of a natural interface using Kinect	IDEHARA seminar
Somawansa Ravindu	Gesture recognition using Leap Motion Controller	IDEHARA seminar
ポスターセッション		
鈴木拳太郎	大学生のアルバイトでのキャリア形成	酒井ゼミ
佐藤 玲子	夢と心理の関係性	大森拓哉ゼミ
白木 郷詞	スマートフォンと依存性	大森拓哉ゼミ
石黒 央基	大人になるとは	酒井ゼミ
小泉 咲希	動物の性格	大森拓哉ゼミ
瀬上賢一郎	食と精神の安定	大森拓哉ゼミ
荒木 健太	料理サイトのレシピの材料の量を任意の人数分で表示するシステムの提案	出原ゼミ
岡島 杏香	洋服販売店の接客における消費者タイプの考察	酒井ゼミ
園江 洸	女優への男女のイメージの違い	大森拓哉ゼミ
吉米地康太	大学生のあがり性	大森拓哉ゼミ
中川 恵里	雰囲気による人の第一印象に差が出るか	大森拓哉ゼミ
福井 理知	理想体型 Get ☆	大森拓哉ゼミ

秋山 智尋	若者の SNS 利用と性格の関係	酒井ゼミ
鳥海 勇貴	酒は良いものだけ	大森拓哉ゼミ
鳥倉 由喬	日韓家電イメージ調査	大森拓哉ゼミ
土井 涼太	レビューが及ぼす人々への影響	大森拓哉ゼミ
井戸田雄士	現代の若者の抱く理想について ～時代・文化的背景からの考察～	酒井ゼミ
出頭 昂大	現代の若者の傾向と問題点	酒井ゼミ
森 沙織	色と性格の関連性	大森拓哉ゼミ
真島 明誉	キャラクターの歴史の変性	梅澤ゼミ
福田 政道	グローバル化の実態と課題	酒井ゼミ
太田 諭志	タバコを吸いたい気持ちは分からなくもない、 でもいや、本当に、喫煙で良くないよね	大森拓哉ゼミ
湯澤 健太	女性モデルの男女のイメージ	大森拓哉ゼミ
五十嵐大喜	キャラクターを活用した地域活性化 —多摩市のすむべき方向性—	梅澤ゼミ
河野 純一	歩くことは大事だよ	大森拓哉ゼミ
望月 祐介	世代間交流におけるバイクツーリングの魅力	梅澤ゼミ
高山 和久	芸人に対する男女の認識の違い	大森拓哉ゼミ
及川 直人	大学と学生の相違を防ぎ退学率を下げる	酒井ゼミ
吉永茉莉奈	趣味が人生にどのような影響を与えるか	酒井ゼミ
遠藤 綾華	消費者におけるインターネット広告の受容性	酒井ゼミ
内田 昂秀	学生視点による大学初年次教育の在り方の考察	酒井ゼミ
尾張 拓也	男女による俳優の見方の違い	大森拓哉ゼミ
島津 陽行	男と女は女優をどうみる？	大森拓哉ゼミ
鈴木 翔太	プロ野球の親会社の資本力と実際の強さについて	大森拓哉ゼミ
竹中 尚樹	LCCで学生旅行	大森拓哉ゼミ
堀川 真紀	若者のライフスタイルと消費スタイルの関連性	酒井ゼミ
吉岡 直樹	優秀な人材になるためのコミュニケーション能力	酒井ゼミ
佐々木景輔	3代でディズニーへ行くきっかけ作り	梅澤ゼミ
下村 耕介	大学生・社会人の社会関係資本の比較研究	中庭ゼミ
小侯 裕二	読書から得られる心理的影響と映像(映画等)から得られる心理的影響の比較	酒井ゼミ
浅田 暢一	これからの日常生活で自動車の価値に気づいてもらうには	梅澤ゼミ
江間 宏路	就職活動疑似体験カードゲーム	出原ゼミ
古西 政樹	離れて暮らす高齢者を身近にする 家族コミュニケーションツールの開発	出原ゼミ
菊池 一葉	女子大学生の外見における自己評価の心理	酒井ゼミ
黒柳 淑雅	「男性フジテレビアナウンサー」アンケート	大森拓哉ゼミ
五味 尚希	過度なサービスは消費者に満足感をもたらすのか	梅澤ゼミ
見付 昂平	理想と現実「ぼくたちのゆめ」	大森拓哉ゼミ
隅田 智明	高齢化社会とテーマパーク	梅澤ゼミ
長原 康至	アメリカ式スポーツがどのようにすれば日本でメジャーになるのか	梅澤ゼミ
鈴木 天生	自転車増加の要因	今泉ゼミ
高橋 里奈	世代による「ブランド力」の影響の違いとブランドのあり方	酒井ゼミ
大石 展久	東京ディズニーランドのパーク内移動手段の構築について	梅澤ゼミ



プレゼミナールの紹介

「プレゼミナール」は、1年生を対象に行われる導入教育の一つです。複数の仲間で、様々な価値観がクロスする中、ディスカッションやグループ活動を通じて多摩大学で学ぶ為の基礎知識・技法などを学びます。

プレゼミナール URL : http://www.tama.ac.jp/smis/smis_pre_seminar.html

「私の志」 URL : <http://www.tama.ac.jp/kokorozashi/index.html>



プレゼミナール担当教員による授業前の打合せが、グループ単位で熱心に行われました。

D グループ担当 経営情報学部 准教授 小林 英夫

プレゼミナールは入学したての1年春学期の必修で、ゼミ重視の本学の特徴が表れた科目です。1クラス約40名の学生を4人の教員が合同で受け持ち、経営情報学部では今春8クラスが開講されました。

基本的なカリキュラムは全クラス共通で、今年度は、自己と周囲の環境についての認識を深めた上で「志」「キャリア」「問題解決」について学びました。但し、具体的な運営形態は各クラスの担当教員に委ねられていて、4名の教員が相談して趣向を凝らしています。

私の担当したクラスでは、内省し自己成長の糧とすること（リフレクション）、他人に対して表現すること（プレゼンテーション）、他者と協働すること（グループワーク）を重視した運営を行いました。学生からは、高校の授業とは全く異なり新鮮であること、共同作業の大切さを学べたこと、本学に期待していたゼミ重視の少人数教育を実践するものであること、などの点に前向きな評価が得られています。教員としても、学期中に学生の成長を肌で感じることができて、喜びを覚えました。

また本科目は教員が共同で担当するため、研究分野を超えた教員間の連携が促されます。さらに各クラスの内容は全教員の間で共有されており、同クラス担当の4人だけではなく全教員の連携も促進しています。このようにプレゼミナールは、学生に対する直接的な教育効果だけではなく、教員に対する現代の志塾たる本学の教育理念の実践を支える仕組みとしての機能も果たしています。

E グループ担当 経営情報学部 准教授 奥山 雅之

「大学と高校の学習の違いは何か」—いろいろありますが、ひとことで言えば「正解があるのが高校、正解がないのが大学」といえるでしょう。先生が与える複雑な数式を解くことや、難解な本を要約してまとめることは、高校でも行います。大学では、正解のない問い、例えば矛盾を内包した社会的な課題を自ら設定し、その解決に向けた選択肢をいくつも考え、そこから最も良いと思うものを選んで提案し、ときには実行していきます。選んだものは正解かどうかわかりません。

1年生春学期のプレゼミナールは、約40名という少人数のコミュニティの中で、教員や仲間の意見を聞きながら自分の意見も主張し、「課題設定→課題解決」という、大学ならではの学習方法を習得していく科目です。

保護者の皆様には実体験があると思いますが、社会に出たら、正解のない「課題設定→課題解決」の繰り返しです。こうした意味で、多摩大学では社会人になるための学びがすでに始まっているのです。

プレゼミナールを修了した学生のみなさん、これからも「正解のない学習」を一緒に楽しんでいきましょう。

H グループ担当 経営情報学部 教授 志賀 敏宏

「私の志」写真公開

本学独特の導入教育であるプレゼミナールの雰囲気をご覧いただくため、「多摩大学 プレゼミナール 志」と検索なさって下さい。新入生が2ヶ月で自らの志を示し、堂々と未来に向けて歩みはじめたことを確認していただけます。

実践的であろう、かつ自分を大切にすると同時に他者のためにも生きる人間になろうという本学の教育方針がしっかりと花開いています。

「志をかなえるために」

志実現のため、十分に学ぶ、そのために本ゼミでは、良き生活習慣の確立を重視します。確実な出席、挨拶を大切に人間関係を築くべきことを徹底して伝えました。

社会人基礎力の自覚、問題解決力の獲得、各人の課題解決のため教員との個別面談、本グループ教員は以上に全力を注ぎました。学生諸君も我々の熱意にこたえ、中間・最終レポートはグループ全員の締め切り厳守の提出がありました。

最終報告での問題解決：志実現へのアプローチに関する発表は、入学から3ヶ月とは思えない学生諸君の成長、未来への手応えを示す素晴らしい内容でした。

経営情報学部

模擬授業、キャンパスツアー、サンリオゼミ体験

7月28日(日)11時から多摩キャンパスにて今年度第3回のオープンキャンパスが開催され、「学部説明会」「キャンパスツアー」「模擬授業」などのプログラムに高校生とご父母の皆様合わせて237名が参加されました。

当日は、12時と13時半からは模擬授業として、グローバルビジネス系「多摩大学で学ぶ実践ビジネス」(金 美德 教授)、地域ビジネス系「ゼミ学生と開発中!新たな『富士山・河口湖観光まちづくりモデル』」(中庭 光彦 准教授)、ビジネスICT系「スポーツとデータ〜スポーツとスポーツ産業を支えるICT〜」(杉田 文章 教授)の3つのテーマでそれぞれ教室を分けて講義が行われました。さらにスペシャルプログラムの「サンリオピューロランドの課題解決ゼミ体験『サンリオピューロランドの高校生向けイベントを考えよう!』」(松本 祐一 多摩大学総合研究所教授)では、事前予約を申し込んだ高校生がゼミ生の案内で朝9時からサンリオピューロランドのフィールドワークに参加、その後多摩キャンパスにて授業を受けることでゼミの概要を体験しました。いずれの授業も高校生は熱心に受講し、多摩大学経営情報学部を知る良い機会となりました。



サンリオピューロランドでフィールドワーク



松本教授のサンリオ課題解決ゼミ模擬授業



多くの高校生が参加



在学生が案内するキャンパスツアー



中庭准教授の地域ビジネス系模擬授業



在学生と高校生が歓談

グローバルスタディーズ学部

在学生による英語と日本語でのパネルディスカッション、ネイティブ教員による模擬授業、ホスピタリティ講座

7月28日(日)11時から湘南キャンパスにて今年度第3回のオープンキャンパスが開催され、「学部説明会」「在学生によるパネルディスカッション」「模擬授業」などのプログラムに高校生とご父母の皆様合わせて104名が参加されました。

「学部学科説明」では、安田震一(William Shang)グローバルスタディーズ学部長が、自身の米国での学生時代のエピソードを軸に、グローバル化する現代で「世界で勝ち抜いていける人材」となるためには、英語を学ぶことが必要であることを語りかけ、また多摩大学グローバルスタディーズ学部の特色ある英語教育「AEP(Academic English Program)」について具体的な英文を用いて説明を行いました。その後、「在学生によるパネルディスカッション」があり、グローバルスタディーズ学部でのキャンパスライフについて、司会の学生スタッフとパネラーの学生との間で英語と日本語での質疑応答が行われました。ネイティブ教員による模擬授業は2つの教室で実施され、参加者は、Mark Zion 准教授と Brian J. English 准教授の授業を通してグローバルスタディーズ学部での学びを実体験することができました。また、国内大手航空会社にて客室乗務員の経歴を持つ小山知子講師による「ホスピタリティ」の学びを紹介するスペシャルプログラムも行われました。キャリア支援についての説明やAO入試対策講座にも参加者の皆様の関心が高く熱心に参加されていました。



Brian J. English 准教授の模擬授業



Mark Zion 准教授の模擬授業



安田学部長が事例を用いて学部説明



在学生による英語と日本語のパネルディスカッション



個別相談に丁寧に対応



スペシャルプログラム「ホスピタリティ」の学び

キャリア支援課 早河 智春 (4年生担当ゼミ：齋藤S(裕美)ゼミ・中村(その子)ゼミ)

キャリア支援課では、学生一人ひとりの状況に応じた教職員一体の手厚いキャリア支援を特徴としています。大きなポイントとしては、次の三つがあげられます。

①『三位一体のサポート体制』

キャリア支援課のスタッフは、学生だけではなく各ゼミの担当教員とも密接に情報交換を行い、学生一人ひとりの性格や適性、状況などに応じたサポートを行っています。

②『企業や行政との強い連携』

キャリア支援で特に力をいれているのが、企業や行政との連携です。採用意欲の高い企業や地元企業に積極的に働きかけ、学内で合同企業説明会や選考会を開催しています。また東京新卒ハローワークのジョブサポーターに毎週一回

来ていただき、学生達の個別相談を行うなど、行政との連携も強化しています。

③『手厚くきめ細やかなキャリア支援プログラム』

3年次の春からキャリア支援講座やガイダンスを毎週開催。なぜ働くのか？仕事のやりがいは何から始まり、自分の強みや面接の受け方、グループディスカッションなどきめ細やかに支援しています。

特に力を入れているのが、実際に舞台で活躍している舞台俳優達を講師とした『自己表現力向上プログラム～IYOKUBA～』で、参加した学生からは『知らない人と話すことに抵抗がなくなった』『思い切りやることの大切さを学んだ』など多くの気付きの声が届いています。

キャリアサポートアドバイザーの紹介

徳嶋 孝

(4年生担当ゼミ：飯田ゼミ・大森(映子)ゼミ・志賀ゼミ・中庭ゼミ・中村(有一)ゼミ・浜田ゼミ・村山ゼミ・諸橋ゼミ)

「今時の若い者は…」というボヤキは平安時代の文書にも見られるそうです。でも時代はずっとその『若者』だった者が担って進歩してきました。若者の可能性を想い、勇気づけ、支援し、未来へ貢献したいと考えています。

平田 順子

産業カウンセラー、キャリアコンサルタント (4年生担当ゼミ：石川ゼミ・梅澤ゼミ・金子ゼミ・杉田ゼミ・樋口ゼミ・久恒ゼミ)

キャリア支援課は学生の味方です。役立つ事は何でも支援したいと思っています。これを活用しないのは余りに勿体ない。就職活動は大変ですが、成長できるチャンスでもあります。学生が一つずつ問題を乗り越えて大人になっていくのは私たちの喜びです。

中村 岩雄

(4年生担当ゼミ：出原ゼミ・金ゼミ・清松ゼミ・彩藤ゼミ・酒井ゼミ・椎木ゼミ・趙ゼミ・常見ゼミ・豊田ゼミ・山原ゼミ)

就職活動は社会人になるための助走期間です。この期間を大切に過ごすことが社会に出て成果を挙げることに繋がってくると思われます。学生と一緒に考えて解決するためのサポートを積極的に行ってまいります。

三串 豊

CDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー) (4年生担当ゼミ：今泉ゼミ・大森(拓哉)ゼミ・下井ゼミ)

就職活動は、相手を知ることと自分を知り、相手に伝えることです。相手にわかりやすく伝えるためには自分自身のことをきちんと理解している必要がありますので、順序だててポイントを整理できるよう指導しています。



後列(左から)三串職員、相澤職員、鈴木職員、早河職員
前列(左から)徳嶋相談員、平田相談員、中村相談員

鈴木 まゆみ

(4年生担当ゼミ：齋藤S(裕美)ゼミ・中村(その子)ゼミ)

長年多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校の事務職員として勤務しており、4月からキャリア支援課に配属となりました。この時しかない貴重な経験であるキャリア支援行事、就職活動を少しでも楽しいものに出来るようサポートしていけたらと思っています。

就職活動を支援するオリジナルハンドブックを配布

多摩大生の就職活動支援のため、「TAMAUNIVERSITY CAREER HANDBOOK 2014」を作成しました。このハンドブックでは就職活動を始めるに当たっての準備から自己分析の進め方やエントリーシート・履歴書の作成ポイント、求人表の検索の仕方や見方、面接試験で気をつけるべきことといった就職活動に必要な事柄や進めかたの注意点を具体的に解説しています。ハンドブックに沿って準備を行うことで就職活動をスムーズに行う助けになります。また、スケジュール表に学事予定・キャリア支援講座日程を記載しているので、説明会や面接のスケジュールと授業などのスケジュールを重ねて確認できるのも便利です。

ハンドブックは3年生の夏休み前に配布され、配布説明会ではハンドブックの有効活用講座や自己分析準備のポイント解説も行われました。(記:三串 豊)



グローバルビジネス人材像創造講演会 今企業が求める人材とは？

多摩企業をはじめとする、志のある企業が求める人材像を探るとともに、多摩大生の企業像を確立する事を目的に外部の経営者や有識者を講師として招いての講演会が第1回 2013年6月7日(金)、第2回 2013年7月5日(金)、多摩キャンパス 101 教室にて開催されました。

●第1回「ベトナムでの JICA の取組み状況について—ベトナムでの現地経験を下に海外で活躍できる人材像について語る—」

〈講師〉独立行政法人国際協力機構 (JICA) 財務部主任調査役 柳川 伸二 氏

海外で「技術協力」と「有償資金援助」、「無償資金協力」を行うことをスキームとする JICA でベトナムに駐在した経験から「海外で活躍できる人材像」をご自身の言葉で語っていただきました。「現地の人と積極的に関わる」「現地の人の習慣、考え方(内在的論理)を学ぶ」「気配り、清濁あわせ飲む、完璧を求めない」の3項目が柳川氏の所感としての結論。言葉の一つ一つが体験に裏付けられた深い内容でした。質疑応答では、学部生から多くの質問が寄せられ、グローバル人材像がより明確となる機会になりました。



●第2回「人材は人財—グローバル競争時代の人材育成—」

〈講師〉内閣官房日本経済再生総合事務局参事官(楽天銀行・前副社長) 野原 彰人 氏

内閣官房と前楽天銀行副社長という官民の立場から、「国家の秋」と憂う日本の現状を明確にし、「永遠の安定はない」中でグローバルコンペティション時代の「覚悟」が必要であると、会場の学部生に語りかけました。グローバル人材育成を企業の覚悟とした「楽天」が英語を社内の公用語としたのは、少子高齢化で近い将来国内のマーケットが縮小するため海外展開を図らざるを得ないからとのこと。ご自身も覚悟をもって英語に取組んできた経験から自分自身の能力にキャップをかけることなく恐れず取り組み続けることが大切であると語り、熱のこもった講演となりました。



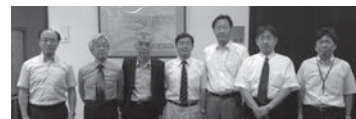
開南大学(台湾) 趙人文学部長が協定校締結に向けて来訪 MOU (Memorandum of Understanding)

2013年8月20日(火)台湾 開南大学の趙人文学部長が協定校(姉妹校)締結に向けた話し合いのため、多摩キャンパスを来訪しお互いの大学について情報交換を行いました。

今回の趙人文学部長の来訪に先立ち、経営情報学部国際交流委員会の教職員は、7月22日(日)に、開南大学を訪問しました。開南大学は特に観光運輸学部が台湾国内では有名で、China Airline と提携し、飛行機機内がそのまま再現された実習ルームが学内に設置されています。また福容大飯店でインターシップ研修も行われており、その詳しい説明を受けるなど、交流を深めました。



開南大学(台湾)訪問



趙人文学部長(開南大学)が来訪

城南静岡高等学校と多摩大学との教育交流に関する協定書締結について

平成25年8月1日(木)に城南静岡高等学校と本学は、高大連携の一環で「教育交流に関する協定」の締結を行いました。教育交流活動の概要は次の通りです。

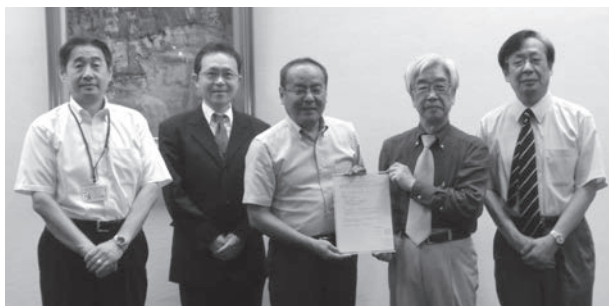
1. 教育についての情報交換および交流
2. 大学からの出張講義
3. 大学が開催する教育活動および学生募集活動への参加
4. 大学の推薦入試、AO入試に関する柔軟な対応
5. その他、双方が協議し同意した事項

現在、同校とは、「地域プロジェクト発表祭」への生徒の参加・発表や、同校にて本学教員が行う出張講義および進学・キャリアガイダンス等で交流をしています。

今回の協定締結を踏まえ、今後は同校と本学の生徒・学生と両校の教員が垣根を越え、直接刺激し合い、教育交流が、より活発に行われることを期待しております。



平成25年7月24日 本学役員室にて。
城南静岡高等学校 進路指導部長 南條隆尋先生(左)と諸橋正幸副学長(右)



グレゴリー・クラーク氏が第三代学長に就任したのが、18年前の1995年9月です。
「問題解決学」「最前線事例」「志人材」「グローバル」「地域活性化」……表現こそ違え、今の多摩大学「現代の志塾」の礎がすでにこの頃からありました。様々なボランティア活動を通じて、学生たちは「志」を高めていきました。この精神はなお揺らぐことなく不変のまま、「現代の志塾」へ綿々と受け継がれています。

グレゴリー・クラーク名誉学長時代

学生のボランティア活動を奨励

「国際化」が進展する中で「他者の理解」を深め、コミュニケーション能力を錬磨することもまた、開学以来一貫した本学の重要な教育目標でした。1996年度、クラーク学長の強い意向で、学生のボランティア活動を奨励することが大きな方針となりました。ボランティア活動を単位認定する制度は、すでに1993年度から「市民活動論II」という形で始まっていましたが、新学長の指示で「ボランティア活動実践」と名称を変え、新たな枠組みでスタートしました。

他大学に先行し、文部省（当時）からも先駆的事例として注目された本学の取り組みは、内容を従来のように福祉活動に限定せず、広く社会的課題の解決につながるものとなることを重視し、活動は個人単位ではなく、非営利の市民活動団体の一員として行いました。学生の活動は団体情報の収集から始まるわけですが、経営情報学部の学生として、参加したNPOの経営や組織運営のあり方をどう改善するか、教室で学んだ情報処理技術をどう活かせるか、などの視点が評価の基準となりました。

1996年度は特に、世界各国で低所得者世帯の住宅建設を支

援するハビタット・インターナショナルというNPOの教育・実践プログラムと提携して、夏季休暇中、アメリカ西部オークランド市にホームステイし、19日間にわたって住宅建築に協力するプロジェクトに5名の多摩大生が参加しました。参加した学生たちは、格差の大きいアメリカ社会の実情とともに、大規模でダイナミックなNPO活動の最先端に触れ、将来への動機づけとなる貴重な体験が得られたと語ってくれました。

また、多摩市内の障害者の自立をめざすリサイクルショップや、点訳、独居高齢者の訪問などの活動に携わった学生たちは、体験を通じて地域の中でひたむきに生きる人たちの姿に心打たれ、自分を見つめ直す機会を与えられて変わっていきました。それは、企業経営の実践とはまた別の「実学」体験でもありました。

こうしたボランティア精神の水脈は、後に見るように第四代中谷蔵学長時代の「自己発見」や「EXゼミ」という新たな単位認定の枠組みの中で、様々な地域活性化に向けた活動となって花開いていくことになります。

（大学教育改革への挑戦 多摩大学教育 20年史より）



多摩市のごみ問題解決に取り組む団体と一緒に「ごみウォッチング」を行う



大学近くの特別養護老人ホームを訪問し、入浴介助について説明を受ける



大学近くの都立桜ヶ丘公園にて指導員のサポートで自然観察実習に取り組む

ひばり 雲雀祭・SGS学園祭 のお知らせ

〈ひばり祭〉

2013年10/19(土)・20(日)

多摩キャンパス/経営情報学部

テーマ：温故知新

～『大学』という

コミュニケーションツール～

〈SGS学園祭〉

2013年11/2(土)・3(日)

湘南キャンパス/

グローバルスタディーズ学部

テーマ：Take Action

～元気・地域・心絆～

多摩大生限定
イベント

横浜FCの試合を親子で見に行こう!!

〈日時〉 2013年11月3日(日) 10:15～15:00 対「松本山雅」戦

〈場所〉 ニッパツ三ツ沢競技場 (横浜駅よりバス「三ツ沢総合グランド入口」下車、
又は市営地下鉄「三ツ沢上町」下車徒歩15分)

〈チケット〉 3000円(2名参加)・5000円(3名参加)

※料金は当日、現地にてお支払いください。

私たち江頭ゼミのイベントと横浜FCの試合で親子の『絆』を復活させませんか？
普段だと体験することができないイベントや、見ることができないスタジアムツアー！
楽しんでもらえること間違いなし!! 特別な時間へご招待します。

〈詳細・申し込み〉 21111145ks@tama.ac.jp 江頭ゼミ 佐藤まで

※参加には事前予約が必要です。参加希望の方は10/25(金)までに、学籍番号・
氏名・参加人数をご記入の上、メールにて上記アドレスまでお申し込みください。

要予約